

平成24年度 第3回CCC社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年8月20日（月）午前10時から午後1時まで

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：津田委員、土屋委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容：学士力の考察に関する検討を行なった。

(1) 学士力の考察 前文の解説に関する検討

あらかじめ委員によって作成された文案を検討・修正した。

- ・導入部分として簡潔にまとめる。
 - ・最初の数行で社会学教育の目的を訴え、ついでその意義および検討の背景について述べる。
 - ・問題を「発見」する能力の修得の必要性が社会学教育の背景にある。
 - ・以後の学士力の解説（5つの到達目標の内容）と重ならないようにする。
 - ・まず「発見する力」の必要性について提示する。
 - ・日本学術会議資料（平成22年7月）を参考にすると、これまでの教養教育の限界がわかる。
 - ・つまり、これまでの教養教育では成し得なかった市民性の育成が、社会の重要な課題となっている。
 - ・また、多様化・複雑化した現代社会において、個人の対応力では限界がある、と言う。
 - ・そこで求められるのは、分野や立場を超えた対話であり、連携・協働ということになる。
 - ・よって、問題を「発見し共有する」ことが市民社会を形成する上で必要な資質と言えるのではないか。
 - ・したがって、「発見」に始まる基礎力として、ついで「分析」「提言」という一連の過程が求められる。
 - ・その中で、知識を受け取るだけのような受動的な態度から、能動的な態度への転換が可能になる。
- こうした諸点を組み込んだ文章とする。

(2) 到達目標1の解説に関する検討

あらかじめ委員によって作成された文案を検討・修正した。

- ・社会学の場合、他の社会科学と比べて、問題設定を自分自身で行わなければいけないところがある。
- その点を留意する。
- ・到達目標の内容自体と重ならないようにする。
- ・これまで社会学が課題として来た「格差」「貧困」「犯罪」といった問題に対して関心を持たせる。
- ・学生がこれまで意識していなかった事柄、社会的に拡がりのある問題に対して関心を持たせる。
- ・様々なことに関心を持たせることと、見過ごしてきたことを振り返らせることの2つが求められる。
- ・表現（文言）としては、教育する側の視点で書くこととし、学生の姿勢を「育む」ことを目標とする。
- ・わかりやすいように、従来社会学が対象としてきた問題を具体例として入れる。
- ・「貧困」と「差別」、「人権侵害」を具体例として入れる。
- ・「見過ごしてきた」問題として、ミクロな視点とマクロな視点の両者に関わる表現を取り入れる。
- ・能動的な態度を求める文言として、問題を認識「しようとする」姿勢を育む、という表現を用いる。
- ・関心を持った問題について「特定できているか否か」は、それが「表現できる」か否か、でわかる。
- ・この点を加える。

(3) 到達目標2の解説に関する検討

あらかじめ委員によって作成された文案を検討・修正した。

- ・到達目標の内容自体と重ならないようにする。
- ・表現方法、分量等、到達目標1の文言に則して文案を修正する。
- ・基礎的な理論を理解する必要性について明記しておく。
- ・自我やアイデンティティ、また相互行為やコミュニケーションといった視点を確保する。
- ・そのために「自己の認識と他者との関わりについて読み取れる」という文言を加える。

(4) 到達目標3の解説に関する検討

あらかじめ委員によって作成された文案を検討・修正した。

- ・到達目標の内容自体と重ならないようにする。
- ・表現方法、分量等、到達目標1の文言に則して文案を修正する。
- ・他分野と合わせて「ヒト・モノ・カネ」という文言で統一する。

(5) 到達目標4および5の解説に関する検討

あらかじめ委員によって作成された文案を検討・修正した。

- ・到達目標の内容自体と重ならないようにする。
- ・表現方法、分量等、到達目標1の文言に則して文案を修正する。
- ・解説として不適切な表現が少なくないので、次回までにあらためて文案を作成し修正する。

V. 次回までの日程等

・次回日程

9月14日（金）17時～（第1候補）

ないし

21日（金）17時～（第2候補）

・検討事項

学士力の考察 前文の解説、到達目標4および5の解説に関して再検討の予定

以上